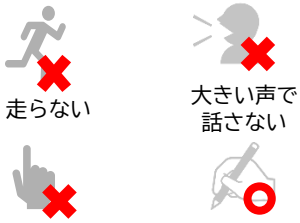
東京国立博物館
たんけんマップ
2021 vol.3

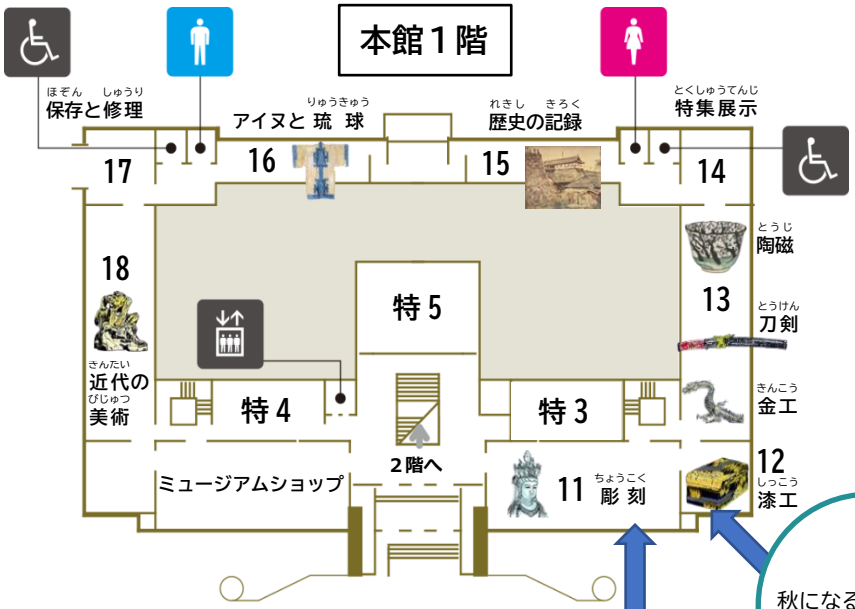
東京国立博物館、略してトーハクは、明治5年創立の日本でもっとも古く、歴史のある博物館だよ。
トーハクには、日本やアジアの美術作品や考古遺物のコレクションが、約12万件もあるんだ。
その中から、総合文化展（常設展）では、約3,000件の展示を見ることができるよ。

たんけんマップは、トーハクボランティアが主に小学校高学年から中学生のみなさんに向けて作成した新聞です。
いつもは博物館内で配布していましたが、ウェブサイトからダウンロードして、家でも楽しんでもらえる内容にしています。

今回の特集はキラキラだよ。トーハクには、キラキラ光っているものや、昔は、キラキラとかがやいていたんだろうなあーって想像できるものがあちこちにあるから探してみよう！

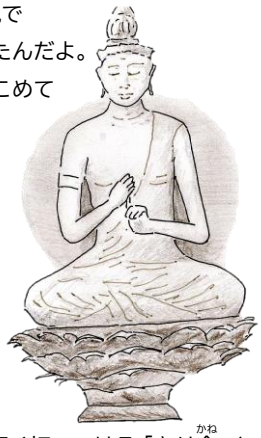
展示室のマナー





本館１１室　金箔（きんぱく）

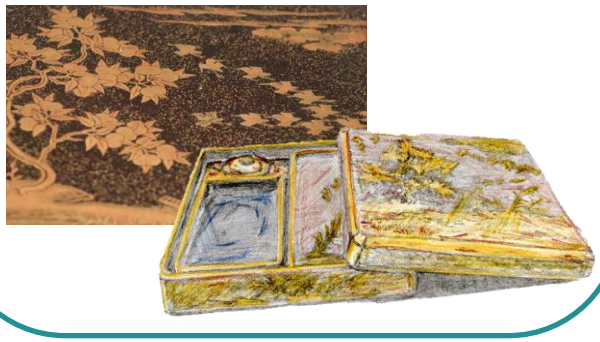
仏さまがいる所は極楽浄土といって、金色でキラキラとかがやいていると考えられていたんだよ。
そして人々はそこへ行きたいという願いをこめて仏像を作ったんだ。
仏さまのからだや、周りのキラキラした世界を表すために「金箔」を使ったよ。
「金箔」というのは、金のかたまりを紙のようにうすく延ばしたもので、それを仏像のからだ全体や、光背という後ろの板にはったりしたんだ。



「金箔」を細く切ってはる「きり金」という技法で、衣の模様をとても細かく表現している仏像もあるよ。
古くなると、金は黒くなったり、はがれたりするけど、本館11室には、まだキラキラが残っている仏像があるかもしれないよ。
じっくり見て探してみてね。

本館１２室　蒔絵（まきえ）

秋になるときれいに紅葉するウルシっていう木を知ってるかな？
その木の皮を傷つけると出てくる白い樹液を、木や紙、やきものなどにぬるとじょうぶになるし、色をつけたり絵や模様をえがくことができるんだ。
そして、その上から金や銀の粉をまいて付着させると、ゴージャスでキラキラな装飾になるよ。
これが「蒔絵」という技術で、大切な仏さまや神さまの道具や、公家や武士の身の回りの品々にほどこされたんだ。
上にまく金属の種類を変えると、色もびみょうに変化するから、たくさんの表現ができるんだって。
江戸時代になるとお金持ちたちが、財力や知的センスをアピールするために作ったから、「蒔絵」にも新しくかっこいいデザインがいっぱいあるよ。
本館12室以外にも、「蒔絵」の作品はあるから探してみてね。



2022年3月

トーハクを探検して、お気に入りのキラキラを見つけよう！

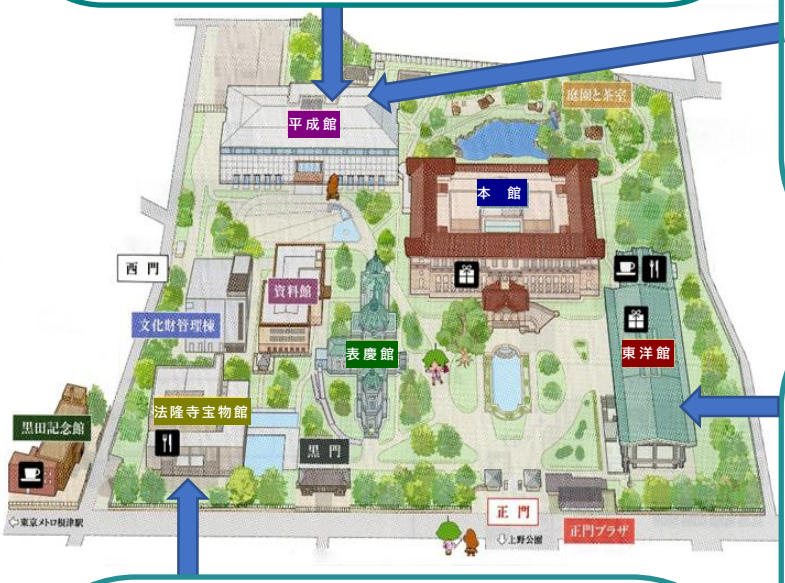
考古展示室 小判（こばん）

「小判」は、江戸時代を中心に何種類も作られた金貨だよ。
金貨といっても、全部金でできている純金ではなく、
銀が混ざった合金で作られたんだ。
その中には、銀を多くふくんだものもあって、
普通そういうものは、白っぽくなってしまうんだって。
そこで、表面をキラキラの金色にするため、何種類かの
薬品をぬった後に加熱して、銀をとかして洗い流すことで、
表面に濃度の高いキラキラの金が現れるようにしたんだ。
考古展示室で本物のかがやきを確認してみてね。
ところで、時代劇などで「小判」をかむシーンを見たことがあるかな？
純金はやわらかいので、強くかむと歯形がつくから、金が本物かどうかを
確かめているんだよ。おもしろいね。

考古展示室　銅鏡（どうきょう）

現代の鏡はガラスの板でできているけど、古代の鏡は銅とすず
を合わせた青銅でできているよ。
弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わってきたんだ。
考古展示室には、たくさんの古代の鏡が
展示されているから、見に行ってみよう。
展示で見られるのは、顔が映る表面では
なく、模様がある裏面だよ。
空想上の動物や神様が表されたり、
三角や四角の模様があるのがわかるかな？
青や緑の色をしているのは、長い間、土の中に
うもれていたため「ろくしょう」という
銅のさびができてしまったからなんだ。
鏡の表面は顔が映るように、ピカピカに
なるまで何度も何度もみがかれたんだよ。
できた時は、今のようにさびもなく、
光りかがやく黄金色だったんだ。
最初に鏡を見た人は、キラキラ光る
ようすにきっとびっくりしただろうね。

↑ このレプリカの写真を参考に想像してみてね。

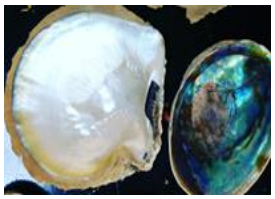


東洋館　螺鈿（らでん）

これは『龍涛螺鈿稜花盆』という、
昔の中国の皇帝が持っていたお盆だよ。
どうして皇帝が持っていたかわかるの
かって？
龍のつめの数を数えてみて！
５本あるよね。
これが皇帝の持ち物の印なんだ。

（※2022.4.5～7.3 東洋館９室）

えがいてあるキラキラな龍は、
「螺鈿」でできているんだ。
「螺鈿」は、貝がらの光沢のある
部分をはがして、みがいたものを
切って、はり付けて作るんだよ。
よく見ると龍の頭は青、うろこは緑、
背びれは赤とそれぞれ色のちがう貝を
使っているのがわかるかな？

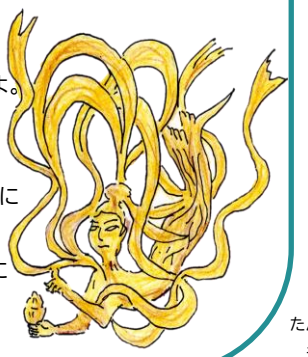


下の方には、糸のように細く切った
貝をはり付けて、波が水しぶきを
上げているような形が作られて
いるよ。
口を大きく開けて体をよじって
前をにらむ龍の姿は迫力満点！
東洋館には他にもキラキラの「螺鈿」があるから探してみよう。
それと龍の絵を見つけたら、つめの数をチェックしてね。

法隆寺宝物館「灌頂幡（かんじょうばん）」

複製の灌頂幡

法隆寺宝物館の第１室には、奈良の法隆寺にかかげられた
『灌頂幡』が展示されているよ。
奥に進むと、階段の上からキラキラの飾りがつり下げられ
てるけど、これは複製の『灌頂幡』なんだ。
本物は中央のケースの中にあって、今から 1400 年も前に
作られたもので、国宝だよ。
国宝の『灌頂幡』を見ると、真ん中から仏さまや天女が
えがかれた長方形の板が２枚下がっているよ。
本当はこの下に、壁側のケースにある４枚がつながってい
たんだけど、１つにセットすると、古いものだから重くて
こわれてしまいそうなんだ。
そのために、複製で昔のまま
の姿が判るようになってるよ。
えっ？これが同じもの？
って思うでしょ。
そう、作られたときはこんなに
キラキラしてたんだ。
複製は、細かい部分も忠実に
再現されているから、
階段の上からも見てみよう。



たんけんマップの
キャラクター
『ガネぞう』

発行：東京国立博物館ボランティア
たんけんマップグループ
2022 年 3 月